

令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立城東小学校

学校の教育目標

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|
| ○心豊かで思いやりのある子 | ○自ら考え学ぼうとする子 | ○進んで正しいことをする子 |
| ○最後までねばり強くがんばる子 | ○健康に気をつけ体をきたえる子 | |

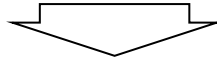
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- | |
|---------------------------------------|
| ○基礎・基本の学力を活用し、問題を解決していく力 |
| ○対話的、主体的に学びを深め、獲得したことを次の学習や生活に生かしていく力 |

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> 第4学年において「文章を書くこと」について目標値を下回っている問題が複数あり、無回答率が19%を超えているものがある。第5、6学年においても、情報を整理して的確に書くことに課題が見られる。 第5学年では、修飾語の関係など言葉の理解、読み取りに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書いて表現する力が不十分であることや苦手意識をもっていること。 文中の情報を整理し、筆者の考えを的確に捉え、それをまとめて書く学習が不十分であった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 第4学年においては、「たし算・ひき算」「□を使った式」など計算問題で目標値を下回っている。 第5学年・第6学年において「図形」「数量関係」の項目において誤答が多く、二極化傾向が見られる。 どの学年においても解法を説明をする問題の正答率が低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着に個人差がある。 数直線や図を活用する力が十分定着していない。 自分の考えを分かりやすく説明する力が十分でない。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 第4学年の「くらしの移り変わり」で目標値を10ポイント以上下回った。 第5、6学年において複数の資料を読み取り、記述する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識が十分定着していない。 資料を読み取り、考察する力、自分の考えを文章で表現する力の育成に課題がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 第4学年においては、区平均や目標値を下回る単元があった。「太陽と地面の様子」「電気の通り道」、結果を考察し結論を導き出すことに課題がある。 第5学年においては、実験結果を根拠として説明する問題の正答率が目標値を下回った。 第6学年においては、仮説を立てて問題を解決する実験方法を構想し、指摘する記述問題で正答率が全国平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 方位磁針ほか実験器具の取り扱いなど、知識面の定着が十分でない。 仮説、仮説に基づいた実験方法の立案、自分の考えを分かりやすく表現する力に課題がある。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 「日常会話の理解（聞き取り）」や「アルファベットの書き（小文字、聞き取り）」の項目において、目標値や平均値は上回っているが、誤答は少なかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットや単語を聞き取ったり、書いたりする経験が少ない。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 全学年においてスポーツテストの結果は全国平均、東京都の平均を上回った。 長座体前屈はほぼ平均値、ソフトボール投げは全学年で低めの傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール運動、体ほぐし等の領域で運動量の確保が十分でない。 校庭が狭いこともあり、投げる動きのある運動の経験が少ない。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末、学年末の確認テストにおいて、漢字の習得、読解問題において平均正答率を80%以上にする。 ・記述問題の無回答率を5%以下にする。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末、学年末の確認テストにおいて、平均正答率を80%以上にする。 ・計算や図形、数量関係の領域の確認テストにおいては、立式や解き方の説明問題の無回答率を5%以下にする。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末、学年末の確認テストにおいて、平均正答率を80%以上にする。資料を読み取り考察する記述問題の無回答率を5%以下にする。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末、学年末の確認テストにおいて平均正答率を80%以上にする。「知識・技能」の項目は正答率を90%以上にする。「思考・判断・表現」にかかわる記述問題の無回答率を5%以下にする。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末、学年末のテストにおいて、正答率80%以上にする。 ・英語専科講師、ALTによるパフォーマンステストにおいて、基本的表現を使って話せるようにする。
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ・長座体前屈の平均記録を前年度比3cm伸ばす。 ・ソフトボール投げの平均記録1m伸ばす。
② 授業改善		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況を考慮した習熟度別指導、朝学習やアフタースクールを実施し、基礎基本の定着を図る。 ・小グループによる検討や話し合いの時間、発表の方法などを工夫し、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。 ・タブレット端末を中心にICT機器を活用して、視覚的、体験的に学習できる活動を多く取り入れる。 ・ドリルパークを活用して、定着が不十分な児童が反復して取り組む機会をつくる。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期末、学年末のテストにおいて、平均正答率を80%にする。 ・学校評価の保護者アンケート「学校は発達段階に応じてタブレット端末を活用している」の項目における肯定的な回答を85%以上にする。 ・「令和6年度学習力サポートテスト」の全ての正答率を85%以上にする。
③ 家庭との連携		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学年の連絡、校内研究の取組などを連絡アプリ「tetoru」に掲載して、定期的・計画的に情報発信を行い、学校の方針、取組等を保護者に分かりやすく伝え、子どもの成長を共に支えてもらえるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくても内容も適切である」において、肯定的な回答を85%以上にする。 ・学校評価の保護者アンケート「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切な対応をしている」において、肯定的な回答を80%以上にする。
④ 体力向上		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動量の確保とマイスクールスポーツにより、児童の基礎体力の向上を図る。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動への取組における自己評価の肯定的回答を85%以上にする。



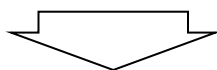
【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none">・タブレット端末を活用し、ドリルパークなどで漢字を繰り返し練習する時間を設けて定着を図る。・視写したり、モデル文を活用して書いたりする活動を重視し、注意深く読んだり、書いたりする力を養う。また、文章の構成、下書きを推敲する時間を計画的に設定し、書く力を育成する。・ペアやトリオなど様々なグループ形態での学習活動を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none">・算数科主任を中心に、学習の進め方、板書、ノートの使い方などについて教員間での共通理解を図る。・各単元の学習前にレディネステストを行い、個々の学習状況を把握し、本人の意思も考慮しながら習熟度別グループを編制する。・デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、視覚的に分かりやすい授業を工夫する。・朝学習を週2回設定し、東京ベーシック・ドリル、ドリルパーク等を活用し、学年の課題となっている項目を中心に基礎・基本の定着を図る。・単元終了時の評価に基づき、必要に応じて個別の指導を行う。・3年生以上の希望者を対象としたアフタースクールにおいて、個別に指導を行い、基礎・基本の定着を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none">・資料の読み取り、活用する活動を意図的に取り入れるとともに、自分の考えを記述する活動を毎時間行う。・グループ学習、学級全体での話し合いなど、様々な形態の活動を設定し、思考力・判断力・表現力を育む。
理科	<ul style="list-style-type: none">・観察・実験の器具等の使い方の指導を徹底し、安全に正しく使用する知識と技能を身に付けさせる。・タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示や記録方法を工夫し、再現が難しい実験などの記録を補完する。・実験結果を仮説と照らし合わせて考察する力、自分の考えを分かりやすく表現する力を伸ばすための手立てを工夫する。
英語	<ul style="list-style-type: none">・英語を使って授業が進められるように Classroom English の掲示をするなど、聞き取りや発話につながる環境づくりをする。・英語講師、ALT と個別に対話する時間を毎時間設ける。・第5、6学年においては、パフォーマンステストを実施する。
体育	<ul style="list-style-type: none">・授業において年間を通して、ボール投げなどボールを自在に扱う運動を短時間・複数回取り入れたり、短時間でできる効果的な柔軟運動を毎回取り入れたりする。・外部講師による投げ方教室で、児童にボール投げの楽しさを味わわせるとともに、指導法の共通理解を図り、ボールを投げる場面を体育学習の中に取り入れる。

② 授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやトリオなど様々なグループ形態での学習を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用した事象提示や記録方法を工夫する。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・検討、まとめの時間における、論理的思考、根拠のある説明、学習のまとめを書く活動などについて、校内研究を生かした指導を繰り返し行い、個々の思考力・判断力・判断力を育てる。

③ 家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と3月の全校保護者会において、管理職から学校の取組についての説明を行う機会を設定する。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学年だよりなどを連絡アプリ「tetoru」で配信するなど、ICTを活用した情報発信を行う。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・7月、12月に全学年で個人面談を行い、学習や学校生活の様子を知らせ、保護者と話し合うことで共通理解を図る。 ・次年度入学児童を対象とした入学前親子面談を行い共通理解を図る。

④ 体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・マイスクールスポーツである短縄、長縄への取組キャンペーンを設定し、全校で体力向上に努める。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師を招き、投げ方教室、走り方教室など各種スポーツ教室を行い、体力向上や技能向上に努める。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語		
	算数		
	社会		

	理科		
	英語		
	体育		
② 授業改善			
③ 家庭との連携			
④ 体力向上			